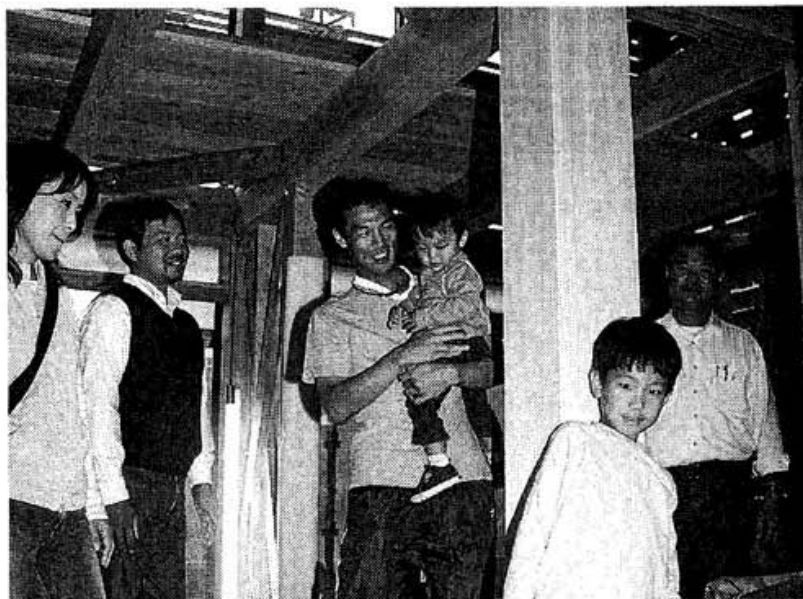


食と農林水産

地産地消

「あの柱は私が選んだスキの木です」。神戸市垂水区内で新居を建築中の会社員矢代勇己さん(38)が一本の柱を指差した。骨組みと屋根までが出来上がった家が支える四本の柱。兵庫県多可町加美区丹治の森にしっかりと根を下ろしているときに家族四人が一本ずつ選んだ。

サウンドウッズの森(兵庫県多可町)



給食の達人

スロー

食の工房

森づくりと建築主結ぶ

木の香りや肌触りを楽しみながら、建設中のわが家を見て回る矢代さん(中央)と家族ら。神戸市垂水区内

同システムを使ったのは矢代さん宅で十四軒目だ。

販売対象は、多可町加美区にある四方所の森のスキヤヒノキ。森の保全・管理の視点から間伐が必要な木を販売用に選び、協議会のホームページや工務店を通じて消費者に情報提供する。どの程度の長さや強度の木材に加工できるかも説明。こうした仕組みで、立木を扱う建築主は、森づくりに参加したことになる。県産材の普及はもちろん、その名通り、森を育てるのが大きな狙いだ。

「山を手入れしている人の話を聞きながら、目の前に立つ木を選べることに感激し、その場で木を決めた」と矢代さん。県の特別融資を受けられるので、県産材を使うつもりだ。ホームページは正式名称の「sound wood(s)」で検索。

(辻本一好)